

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

シドニー本願寺報

732 Pacific Highway
Gordon (Sydney) N.S.W. 2072
PO Box 292 Lindfield
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Email : hbma@optusnet.com.au
<http://www.hongwanji.com.au>



2018年度のお盆法要を つつがなく終えました！



お盆法要にお参り下さった皆様：(後列左より)渡部頌君、フオン
グ・ノーマンさん&ラズロくん、奥山裕子さん、ハワードひと
みさん、ニルソン・ラドナー・マックスさん、久田奈緒さん、ク
ーク・ロイさん、(前列左より)渡部開教使、ランフト・グラハムさ
ん、グッテンビー・ジョージ師、三井ブラウン綾子さん、渡
部亜美ちゃん、(12/08/18;撮影by由紀美)



焼香するクーク・ロイさん グラハム氏を含む15
人のご縁ある皆様とご
一緒にお勤めすることができました。

去る8月12日に、
今年度のお盆法要を、
今年度のお盆法要を、
アデレードからグッテ
ンビー・ジョージ師、
クーク・ロイ氏、キャ
ンペラからランフト・
グ
ラハム氏を含む15
人のご縁ある皆様とご
一緒にお勤めすることができました。

今回は、初めてお参り下さったメルボル
ン在住(京都出身)の久田奈緒さんを迎え、い
つもお参り下さる三井綾子さん、奥山裕子



お盆法要のお荘厳が成
れたご本尊(12/08/18)

さん、ハワードひと
みさん、ニルソン・
ラドナー・マックス
さん、フオング・
ノーマン&ラズロ親
子のお二人といった
皆さんとともに賑や
かなお盆法要をお勤
めすることができま
した。

皆さんを歓迎する
言葉の後、ランフト
氏の尺八演奏・本曲

『永久の別れの哀歌』を初めてCDで聴い
た後、『阿弥陀経』の読経を致しまし
た。そして、一人一人にお焼香して頂い
た後、子供たちへお盆の起源となったお
話しをしました。

お釈迦様がご在世の頃、10人の秀でた
お弟子さんがおり、その中の一人、神通
力第一の目連尊者のお話です。ある日、
目連は神通力を使い、優しかった母を捜
しました。しかし、天上界に生まれて
いったと思っていた母はそこにはおら
ず、上から順に懸命に探して行きました
がなかなか見つけれられません。そして、
まさかここにいるはずはない、と思っ
た一番下の地獄界の餓鬼道に、骨と皮だ
けになって苦しんでいる母を見つけたの
でした。目連は急ぎ食べ物を与えようと
するのですが、差し出す物は全て燃えてし

(2ページへつづく)

今年大阪北部
で起こった地震
並びに、七月の
豪雨災害に際し
ての「たすけあ
い運動募金」が
本山で受付開始
されました。災
害義援金にご協
力頂ける方は、
開教事務所まで
ご連絡下さい。
宜しくお願い致
します！ 合掌

もくじ

2018年お盆法要	1-3
お寺の予定表	1
お盆の法話	1-3
今月のことば	3
カウラブレイク	4
アウト法要	
シドニー寺院建	4
立祈念マラソン	
祥月の案内	4
ご 懇 念 録	4

★ お寺の予定表 - Calendar ★

Sep 2	(Sun)	11:00 am	九月祥月法要/September Shotsuki Memorial Service
8	(Sat)	11am-6pm	Matsuri in Willoughby 2018 / ウィロビー日本祭り
9	(Sun)	11:00 am	日曜礼拝/Sunday Service
14	(Fri)	9:30 am	Kagyū Monlam Buddhist Prayer @Bankstown
16	(Sun)	7:00 am	平和と寺院建立祈念シドニーマラソン/Sydney Marathon
17&18	(Mon&Tue)		Meeting with the Vatican Delegates from the Pontifical Council
21	(Fri)	2:00 pm	合同教会にて国連平和の日の集い/UN Peace Day Service
23	(Sun)	11:00 am	春季彼岸会/Spring Equinox Day Service
24	(Mon)		[本願寺報発行 / New Bulletin Issue]
30	(Sun)		< 休 座 - No Service - >





「たとえこの世で栄華に耽り、身に余る財産があったとしても、無常の風が吹けば、すべてわが身から離れてしまいます。この道理をよくよく考えて、浄土へ往生する道を求めるべきです。」

(蓮如上人の『ご文章』より)



開教事務所入口に置かれたお盆法要の案内



まい途方に暮れてしまいます。

どうしたらいいのか相談してきた目連にお釈迦様は、「息子のお前には優しくお母さんではあったが、他の人と分かち合うことをしなかったために餓鬼道という地獄に落ちなければいけなかったのだ。」と説明され、「お母さんに代わり全ての人たちに食べ物を施すことによりお母さんは救われて行くであろう」と説かれたのでした。

その言葉に従い、安居(あんご*1)と言う夏の勉強会の終わった日にお釈迦様のお弟子さんみんなを招待し、沢山の食べ物を施したのでした。その行為により、お母さんが救われて行ったのを見て、目連は小躍りし喜んだのでした。そして、それが盆踊りの起源となったのでした。「自己中心で、自分だけの事ばかり考えないで、みんなのことを考えるようにしましょう!」ということをご自分で私たちに教えています。

その言葉に従い、安居(あんご*1)と言う夏の勉強会の終わった日にお釈迦様のお弟子さんみんなを招待し、沢山の食べ物を施したのでした。その行為により、お母さんが救われて行ったのを見て、目連は小躍りし喜んだのでした。そして、それが盆踊りの起源となったのでした。「自己中心で、自分だけの事ばかり考えないで、みんなのことを考えるようにしましょう!」ということをご自分で私たちに教えています。

とのメッセージを子供たちはしっかり受け止めてくれました。

ジョージさんの英語法話の後の日本語法話では、お盆の話をも浄土真宗の門信徒として如何に私たちは受け止め味わうべきかについて次にお話しさせて頂きました。

浄土真宗のお盆

文明10年(1478年)、蓮如上人64歳の時、孟蘭盆会にあたり書かれた「ご文章」を紹介致します。

「今年の初め、大阪、出口より京都/山科の庵に移って来て、昨日、京都過ぎていくうちに、早くもお盆になりました。これによって世の無常を思うに誠に夢幻のようです。」

私は今日まで病気に苦しめられてはいませんが、いつ死の縁にあうかもしれません。今日無事だからと言って明日どうなるのかわからないのが人間ですから、水上の泡、風前の灯火のようなものです。こうしたことより、

*1 安居(あんご)とは、僧侶が一定期間、外に出ずに屋内にこもり修行を行うことを指しますが、元来安居とは仏教の始まりの地であるインドにおいて、雨季に増える虫への不用意な殺生を避けるため、一定期間は外出せずに、これを良い機会として御堂において皆で修行を行ったことがはじまりと言われています。



目連は餓鬼道に落ちていた母の元に駆け寄り食べ物を口に運ぶのですが、全て火に包まれて食べることが出来ませんでした。



蓮如上人

何よりもまず願うべきは往生浄土の一大事であり、これに過ぎるものはありません。

たとえこの世で栄華に耽り、身に余る財産があったとしても、無常の風が吹けば、すべてわが身から離れてしまいます。この道理をよくよく考えて、浄土へ往生する道を求めるべきです。

お釈迦様の諸々の教えをもとにした修行はもとより素晴らしいものですが、末法の世に生きる人々には、困難な修行です。幸い、こうした悪世のもののために阿弥陀如来の他力本願が成就されているので、この仰せにしたがって信心を決定し、いつまでも仏恩に感謝するため、いかなる時も称名念仏申すべきものです。」

蓮如上人がこの「ご文章」でお示しにいられている要点は、次の四つにまとめられるでしょう。①この世は夢幻のような無常の世である。②富や権力などは、死に対して役に立たない。③それだから、真に願うべきは浄土往生である。ですから、④阿弥陀仏の本願に従い、信心を得て、仏恩報謝のお念仏の日暮らしをするよう努めましょう。ということです。③、④が結論で、①、②がその理由、と言えます。

お盆を迎えられた蓮如上人は、まず、月日の過ぎ行く早さに、改めて世の無常をお感じになられています。それもただ無常と口にされるだけでなく、「今は健康だが、」と、ご自身の身の上に照らして語っておられることに注意したいと思えます。



私たちが一生懸命ご聴聞される参拝者の皆さんは、お盆に

なると、先祖を偲んでお墓まいりなどに出かけます。しかし、自分自身も無常の風に吹かれて明日をも知れない身であることを、どれだけ、真剣に考えていることでしょうか?行く末が案じられるのは、先祖ではなく、まさに無常の世を生きる自分自身なのです。

しかし、私たちはその現実に目を向けることなく、常に「今の欲望の充足」にエネルギーを注ぎ込んでいます。確かに、この世の幸福を追求することは当然と言えますが、その多くは財産や権力、名声といったことです。ところが、死に臨んでは、それらは全くなんの役にも立たないのです。

栄華を極めた戦国武将の豊臣秀吉がその辞世の句に、

「つゆと落ち、つゆと消えにし我が身かな、なにわも事も 夢のまた夢」

と詠んだといひます。まさにその通りでしょう。

こうした、「無常の道理」をよくよく考えねばならない、とおっしゃる蓮如上人は、何よりもまず先に求めるべきもの、生と死を貫いて当て頼りになるものとして、「阿弥陀如来のご本願」をお示しになられたのです。

考えてみますと、私たちは仏様に手を合わせることはあっても、その意味を考えたり、自分自身が悟りを開くということに思いを致すことは、少ないのではないのでしょうか？それどころか、生死の世界、つまり迷いの世界にいるのに迷っているとも思わず、限りある命を永遠だと錯覚さえしています。もしそうでないとするなら、私たちはもっと真剣に生死の問題を解決する道を求めているはずです。

御釈迦様は8万4千と言われる多くの法を説かれましたが、お釈迦様の入滅からはるか久しい今の末法の時代にあって、そのみ教えにかなう人間はいないという、蓮如上人の御指南の通りです。

そのような私を、予てから見抜かれた上で、建立されたのが、阿弥陀様のご本願でした。

上人は、このご本願のおいわれを聴聞して信心を決定し、必ず仏と成る身に定まったことを喜び常に報恩感謝の心で、お念仏を申すべきであるとお勧め下さるのです。

先祖を忍び、仏法聴聞を

こうした蓮如上人のお示しこそ、私たち真宗門徒がお盆の法要を勤める意義であり、お盆を迎える心構えと言っているでしょう。ですから、浄土真宗のお盆は、この期間だけ帰ってくるという先祖をお迎えしたりお送りしたりするのではなく、この私自身がみ教えに出会い、私自身が仏法を聴聞する場であって、その他に特別なことは何もない、と言えましょう。

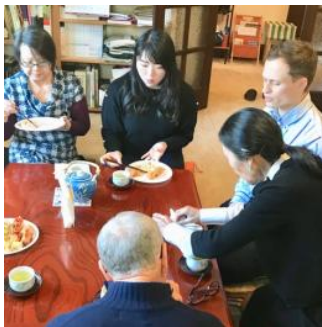


本尊前で焼香する奥山さん

お仏壇のお飾りも、法事などと同じにし、精霊棚や、迎え火などは一切する必要はありません。今は亡き先祖を偲ぶことを通して、命の無常を思い、無常の世であるからこそ、はやくお念仏を喜ぶ身になれるよう心がけ、これを機縁に仏法聴聞に一層いそむ、そんな法事、ご縁の日にしたいものです。まずは今年のお盆は改めて自分自身の命の行方を考える機縁にいたしましょう。迷っているのは、ご先祖ではなく、この私自身なので、そして迷っているからこそみ教えを聞かせて頂き、この自分を今救ってくださる仏様がいらっしゃる、その仏恩に感謝させて頂きましょう。

南無阿弥陀仏

無事に法要を終え、仏前で全体写真を撮った後は、待ちに待ったお斎の時間、皆様が持ち寄り下さったご馳走を堪能させて頂きました。お昼をご用意頂いた、奥山裕子さん、三井ブラウン綾子さん、フォング・ノーマンさん、ニルソン・ラドナー・マックスさん、ハワードひとみさん、クーク・ロイさん、そして家内の由紀美へお礼申し上げたいと思います。そして、一緒に集ってくれた子供たち、ラズロ・フォング君、そして我が家の、由信君、亜美ちゃん、頌君—ようこそそのお参りでした。



お持ち寄り下さいましたお斎に舌鼓を打たせて頂きました！ご馳走様でした！(12/08/18)

この日お参り下さいました皆さんのお陰をもちまして、今年度のお盆法要も無事に終えることが出来ましたこと本当に有り難く思っております。また今後の法要もどうか宜しくお願い申し上げます！

合掌
オーストラリア開教事務所 所長 渡部重信



今月のことば

凡夫は
ぼんぶ

すなわち

われらなり

親鸞聖人
しんらんしょうにん

一一七三年〜一二六三年



Shinran Shonin
(1173-1263)

Foolish beings
are
indeed us!





カウラ ブレイクアウト

74周年追悼法要を厳修

於：カウラ戦争墓地 2018年8月5日(日)

朝は寒かったですが、法要の始まる頃には春めいた陽気となったカウラ戦争墓地にて、74年目となる



今年も8月5日のブレイクアウトで亡くなった豪州兵、日本兵の追悼式典が行われました。そして、日本人墓地にて法要を執り行なわせて頂きました。



豪州兵墓地にて献花

午前10時に始まった式典は、カウラ日本庭園&文化会館理事のトニー・ムーニー氏が今年も司会を務め厳かに進められました。豪州兵の墓地では、12輪以上の花輪が供えられ、そのうちの一つを、野下防衛駐在官とウェバー・カウラ退役軍人会会長と一緒に供えさせて頂きました。そして、日

本人墓地に移り、再び花輪が供えられ、ここでは、ポプ・グリフィス・カウラ日本庭園&文化会館会長と共に供えさせて頂きました。献花に引き続き、仏式の法要を勤めさせて頂きました。法要後は、一般の方にお焼香をして頂き、草賀純男日本国大使&郁子ご夫妻らが仏前に手を合わせられました。合掌



カウラ日本庭園をウエスト市長(右から四人目)に案内をして頂きました。



42.195
KMS

平和と寺院建立祈念のための

シドニーマラソン参加

9月16日(日)午前7時



来たる9月16日(日曜日)に行われるシドニーマラソンに渡部開教使が再び出走します。



世界の平和と、オーストラリアでの寺院建立祈念の為に走るこの

イベントに寄付をと思われる方は、「Peace Run」と明記された上で下記口座までご入金下さるよう宜しくお願い申し上げます。

Account name: **Hongwanji Buddhist Mission of Australia**
BSB No: **032-197**
Account No: **48-1501**
Description: **Peace Run**



九月の祥月法要

September Shotsuki Memorial Service

Okuyama, Ayako 奥山 綾子 様 (2006)
Natsume, Emiko 夏目 笑子 様 (1988)
Hayashi, Masao 林 正男 様 (2003)

上記の方々が9月に祥月を迎えられます。ご家族、或はご縁のございます方は、来月9月2日午前11時に、お勤めされます祥月法要にどうぞお参り下さいませ。

ご 懇 念 録

Expression of Dana/Gratitude



この一ヶ月間で、下記の方々より総計 1,510.00ドルのご懇志をご進納頂きました。また、お賽銭箱には、計26ドルが浄財として参拝者より喜捨して頂いており、これは本願寺設立基金へ進納されました。有り難うございました。合掌

In the past month, donations to the amount of 1,510.00 were offered to the Amida Buddha through the Hongwanji Buddhist Mission of Australia. HBMA members and attendants have also deposited \$26.00 in the donation box which deposited to the Hongwanji Temple of Sydney Building fund. The HBMA acknowledges the donors and would like to express our sincere gratitude to the following for their generous donations:

- * Mr/Mrs Yoshiaki Matsunaga - Membership contribution
- * Ms Qing Liu - Husband's funeral service
- * Mr Roy Cooke - Special Donation for Peace Run & Obon
- * Mr/Mrs Michael Chen - Special contribution
- * Mr Norman Fung - Special Donation for Obon
- * Mrs Ayako Mitsui-Browne - Special donation for Obon and weekly contribution
- * Rev George Gatenby - Special Donation for Peace Run
- * Ms Hitomi Howard - Shotsuki memorial service
- * Ms Shizuko Takeda - Special contribution for Obon
- * Mr Max Nilsson-Ladner - Contribution for CD
- * Japan Club of Sydney - Printing honourarium
- * Buddhist Council of NSW - Chaplain Fund

Thank you very much in Gassho





BULLETIN



Rev Watanabe officiated a service at the Cowra Prisoner of War Breakout Commemorations 2018 on 5th August 2018



Rev Watanabe was once again invited to present at the Cowra Prisoner of War Breakout 74th year Anniversary Commemorations event on Sunday 5th August 2018 and officiated Buddhist Service of Respect at the Cowra Japanese War Cemeteries.



Rev Watanabe with Mr Roll and Mr Nicholson.

Mr Gordon Roll, President of Cowra Breakout Society, and Mr Harvey Nicholson, Vice President of Cowra Breakout Society, warmly welcomed Rev Watanabe in front of the Cowra War Cemetery.



Rev Watanabe participated the Wreath laying ceremony at the Australian Soldier's site with Mr Shigehiro Noshita (Centre) and Mr Jono Webber(05/08/18).

The ceremony started 10 am at the Australian War Cemetery. As usual, Mr Tony Mooney OAM, Director of the Cowra Japan Society was Master of Ceremonies, and over a dozen of wreaths were laid



Mr Mooney



Rev Watanabe and Mr Bob Griffiths laying a wreath at Japanese War Cemetery.

one by one announced by Mr Mooney. Rev Watanabe laid the first wreath with Mr Shigehito Noshita, Colonel, Ground Self-Defense Force Army Attache in Australia, and Mr Jono Webber, President of Cowra RSL sub-Branch.

At the Japanese War Cemetery, once again wreaths were laid one by one. Rev Watanabe laid a wreath



with Mr Bob Griffiths, Chairman of the Board of Cowra Japanese Garden.

Then after the wreath laying ceremony, Rev Watanabe officiated a Buddhist Service of Respect at the Japan War Cemetery which was followed by incense offering commemorating all the people

who died 74 years ago. Ambassador Sumio Kusaka and Mrs Ikuko Kusaka also participated in the incense offering.



After arriving at the Cowra Japanese Garden, we were invited to have morning tea and scones. This was a significant morning tea! 74 years ago a lady by the name of Mrs Weir who lived in Holmwood, just out of Cowra,



Tea & Scones

invited three POW soldiers who happened to appear in her backyard, into Mr & Mrs Kusaka her house and offered tea and scones which she had baked. Such a beautiful story! We all enjoyed morning tea and delicious scones.

In Gassho,



(L-R) Mr Griffiths, Mr Mooney, Rev Watanabe and Mr Kusaka.



Thank you Ami and Sho who joined to this ceremony.



Please help for the Appeals of North Osaka Earthquake & July 2018 Heavy Rain disaster!

Those who wish to donate for these appeals to support people who continue to live in difficult circumstances, please make a (or two) donation(s) to the following account. In Gassho,

Account name: Hongwanji Buddhist Mission of Australia
 BSB 032-197 Account No: 48-1501
 Description: North Osaka or Heavy Rains



Dharma, which is the greatest blessing anyone can have.

Obon is also called **Kangi-e**: meaning, the 'gathering of joy'.

In his writings, Shinran tells us that 'kangi'

— joy — means to rejoice in body and to rejoice in mind. This is a great joy, true happiness. It is what Shinran found when he realised the true Dharma, true Buddhism.

Kangi-e, the gathering of joy, is based on the joy of Mogallana, who was a leader among Shakyamuni Buddha's disciples. In the Ullambana Sutra we are told that Mogallana rejoiced in the knowledge that, by following the advice of the Buddha, his own mother had been saved from the suffering of the hell of hungry ghosts.

This is how the Ullambana Sutra describes that moment:

'Thereupon, Bhiksu Mogallana, along with all the bodhisattvas in the great assembly greatly rejoiced.' (Ullambana Sutra, BDK, English Tripitaka 25-V, p. 24)

Although the Ullambana Sutra, on which Obon or Kangi-e is based, tells us the story of the salvation of Mogallana's mother, its essential message is that finding the Buddha Dharma — Buddhism — and putting it into practice is the best thing we can do to repay our parents for bringing us into the world.

When Mogallana discovers that his mother is suffering in hell, his first reaction is to go to the Buddha for guidance. As a result of this decision, Mogallana's problem is solved and he rejoices.

To find Buddhism we have to first be born as a human being. That means that we have to have parents. Adoptive parents also nurture us through those dependent early years.

To be born human means to live a human life, and that offers us the chance to hear the teaching of the Buddha.

Shinran Shonin was someone who also fulfilled his birth as a human being by hearing the Dharma. Like Mogallana, it brought him great joy. For example, in this passage:

How joyous I am, my heart and mind being rooted in the Buddha-ground of the universal Vow, and my thoughts and feelings flowing within the dharma-ocean, which is beyond comprehension! I am

All attendants were enjoying to listen Rev Gatenby's Dharma message. (12/08/18)



deeply aware of the Tathagata's immense compassion, and I sincerely revere the benevolent care behind the master's teaching activity. My joy grows even fuller, my gratitude and indebtedness ever more compelling. (CWS, p. 291)



Mr Max Nilsson-Ladner offering incense

Shinran heard about the true Dharma from his teacher Honen Shonin and, in turn, told us about it in his teaching, and in the writing that he left for posterity, in the hope that others will find the same joy that he found. He sums up what he discovered in this way: **Those who, hearing Amida Buddha's Name, Rejoice in it with reverence and praise, Receive its treasury of virtues: The great benefit acquired with one utterance is supreme.** (CWS, p. 332)

Shinran tells us that this 'great benefit' is to attain nirvana when we are born in the Pure Land at the end of our life.

In finding the Buddha Dharma, in accepting the working of the Primal Vow of Amida Buddha in Namu Amida Butsu, we truly repay our parents for bringing us into the world and giving us a human life.

In Gassho,

Dharma message was followed by Rev Watanabe's Japanese message. Then we all sang "Ondokusan", and the Obon service was concluded.

Then we all enjoyed a Potluck lunch all together, like Sakyamuni Buddha's disciples receiving Moku-ren's offering.

Big "Thank you" goes to **Ms Hiroko Okuyama, Ms Ayako Mitsui-Browne, Mr Max Nilsson Ladner, Mr Norman Fung, Mr Roy Cooke, Ms Hitomi Howard, finally Yukimi Watanabe,** for your wonderful contribution towards this "Gathering of Joy"!

Because of each one of your participation, we were able to successfully observe this year's Obon Service.

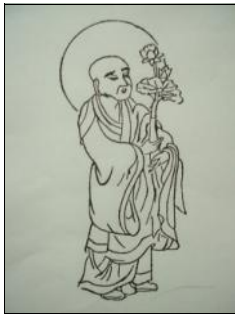
All of your support is much appreciated and we will ask for your continuous support for our mission. Hope to see you again soon.

In Gassho,



Origin of Obon /Kangi-e

One of the ten great disciples of Sakyamuni Buddha was Mokuren, who loved his mother, because his mother loved him very much. According to the Ullambana Sutra, one day Mokuren was reflecting upon his beloved mother who had already passed away. At that time, a question came to his mind, "Where did my mother go, and what she is doing now?"



Mokuren
(Maudgalyayana)



Mokuren tried to feed his mother but food was all burnt.

He had supernatural powers, which he had obtained through his hard practices, so he was able to see people who had already passed away. So, Mokuren used this power to search for his beloved mother.

Mokuren thought that as his mother was so good, she must be in a heavenly world. So, first he searched there but could not find her, then he tried to see the second world from the heaven, - again it was not successful. He tried to see one lower world again.

But still he could not find her, he searched through all the worlds and finally, when he saw the bottom of the world, he found her. Alas! It was a big and sad surprise for Mokuren that his mother was suffering in the hell of hungry demons. It was an unbelievable scene for him. His mother was very skinny and almost just flesh and bone. Mokuren rushed to her trying to offer some food, but it caught fire before his mother could put it into her mouth. He tried many times but nothing worked. Mokuren had no idea what to do, so he went to see Sakyamuni Buddha.

Buddha listened to the story, and then told Mokuren why his mother had to go into such a world;

"Mokuren, your mother is suffering right now, because she did something wrong when she was in the human world".

But, Mokuren could not believe it and said;

"She was always a very kind and wonderful mother, what did she do?"

Sakyamuni said, "I know she was really a wonderful mother, but she was good only to you, not to others. Whenever she had something good, she hid it from others and gave it to you, Mokuren. Your mother never shared things with others."

Mokuren said, "Is it because of me?"

"Yes, Mokuren." Buddha replied, "She loved you too much".

Mokuren then asked, "What can I do for her?"



Mr Norman Fung and his son, Laszlo offering the incense. (12/08/18)



BULLETIN

Buddha said, "There is a way to save your mother. Because she did not share things with others, she went to the hell of hungry demons. Therefore, if you offer and share things with others on behalf of your mother, and if they are pleased, then your mother will be all right."



In accordance with Buddha's word, Mokuren prepared many kinds of food and shared it with all the Buddha's disciples on the last day of their summer study meeting on 15 August. They ate everything and all the disciples were very pleased. Then Mokuren was finally able to see his mother's peaceful smiling face. Mokuren was very happy as he jumped and danced with joy!

Since then, every year on the same day, the same thing has been done. This is the origin of the Obon and the Obon dance.

As I write this article, I wonder if we are still doing the same thing as Mokuren's mother. Whenever we get something good, we don't share it with others, but only share it with our children. From the Buddha's point of view, all human actions are beset with selfishness. So we can't count how many selfish acts we make for the sake of our children, family or loved ones. These actions may commit us to the Hell of hungry demons. The only way for our salvation is to encounter the Vow of Amida Buddha; to encounter the teaching of the Nembutsu, and live the life of appreciation, embraced in the arms of Amida Buddha.

Let us recite Namu Amida Butsu showing our appreciation to Amida Buddha who works all the time for us all. - Namu Amida Butsu - .

After sharing a Dharma message for children, Rev George Gatenby talked to the adults as follows.

Mogallana's joy

Hard is it to be born as a human being, hard is it to live the life of a human being, hard is it to hear the teaching of the true Dharma, and rare is the appearance of the Buddha. (Dharmapada, 182; Buddha Dharma, p. 438)



Rev George Gatenby

This verse from the Dharmapada reminds us of the great privilege of human birth. It also draws our attention to the role of those who gave us our life - our parents - and, with human life, the rare chance to hear the Buddha

(Continues on page 3)

BULLETIN

Volume 19 - No. 7
27 August, 2018

Hongwanji Buddhist Mission of Australia

PO Box 292 Lindfield (Sydney)
N.S.W. 2070 AUSTRALIA
Phone : (02) 9403-1256
Mobile : 0412-396-014
Email : hbma@optusnet.com.au
http://www.hongwanji.com.au



Inside This Issue

Successful Annual Obon service 2018	1
Obon story for children & message for the adults	2
Rev George Gateby's Dharma message	2-3
2018 Cowra Service of Respect / Fund Raising Appeal	4

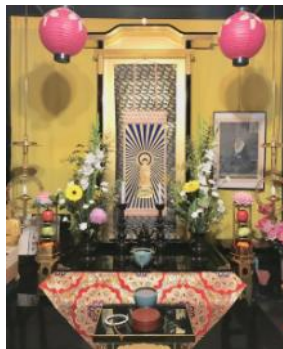
Successful Annual OBON, Shotsuki, and Memorial Service for all victims of July 2018 heavy rain in Western Japan 12 August 2018



(Back row L-R): Sho Watanabe, Mr Norman & Laszlo Fung, Ms Hiroko Okuyama, Ms Hitomi Howard, Mr Max Nilsson-Ladner, Miss Nao Hisada, Mr Roy Cooke, (Front row L-R) Rev Watanabe, Mr Graham Ranft, Rev George Gateby, Ms Ayako Mitsui-Browne, Ami Watanabe. Photo taken by Yukimi Watanabe (12/08/18)

On 12 August, we observed the Annual Obon service, combined with August Shotsuki and Memorial service for all victims of July 2018 heavy rain in Western Japan with our members and supporters.

We were able to observe this year's Obon service with 15 people. We welcomed longtime Dharma friends **Rev George Gateby** and **Mr Roy Cooke** from Adelaide, and **Mr Graham**



HBMA Shrine was decorated for Obon Service. (12/08/18)

Ranft from Canberra. We listened Mr Ranft's Shakuhachi piece "Towa no wakare no aika (Lament for that which has gone for ever)" in his CD during the service.

We were also pleased to have a new guest, **Miss Nao Hisada** from Melbourne (originally from Kyoto, Japan).

The Obon service is a wonderful occasion for rejoicing in the



Mr Ranft us explaining about his Shakuhachi piece we listen on this Obon day (12/08/18).

awakening offered by the Buddha, and this is also an opportunity to express our gratitude not only to our ancestors, but also to all who have passed on into Amida Buddha's Jodo (Pure Land). Therefore, Obon is often referred as **Kangi-e** (歡喜会), which means "Gathering of Joy".



Miss Nao Hisada offered incense and placing her both palms in **Gassho** (12/08/18)

We started the service at 11am. After chanting the Amida Sutra, we took it in turns to offer incense. For the children's Dharma message, I talked about famous Obon story about Mokuren (Maudgalyayana) and his mother.

(Continues on page 2)



Run for PEACE on 16 Sep & Run for the future of HBMA



Rev Watanabe will join the Sydney Running Festival on 16 Sep and he will run 42.195km once again for the **World Peace** and also the **future of Hongwanji Buddhist Mission of Australia!** If you wish to donate for this event to support Reverend's run, please make a donation to the following account: **Account name: HBMA**
BSB 032-197 Account No: 48-1501 Description: Peace Run



In Gassho,
BLACKMORES SYDNEY MARATHON 42.195 KMS